

1年生

自然と遊ぼう

- 春を探しに行こう
- 夏を探しに行こう
- 秋を探しに行こう
 - ★秋見つけゲームをしよう
- 冬を探しに行こう

関わった教科と時間	環境教育実践の評価
生活科 29 時間	季節ごとに植物の状態を観察することによって、秋や冬、季節によって変化する身近な自然を感じた。これを屋外探検とゲームによって、楽しく実感できた。
国語科 21 時間	
図画工作 4 時間	
合計 54 時間	

3年生

校庭の木とぼく・わたし

- 自分の木を観察しよう
 - ★ゲスト授業「木について」小池伸男先生（樹木医）
- 校庭の木図鑑を作ろう
 - ★中間発表会 小池伸男先生（樹木医）
- おもいっきり表現してみよう！コンクール参加（創作詩の朗読）
- 校庭の木を紹介しよう
 - ★校庭の木のプレートを作ろう
 - ★ぼくたち私たちの木を植えよう

関わった教科と時間	環境教育実践の評価
総合 49 時間	校庭に自分の木を決めて、五感を使った観察方法や、ゲスト講師による学習、そこで知った自分だけの「木のひみつ」を記載する図鑑づくりによって、樹木に対しての興味と親近感を養うことができた。
国語科 30 時間	
合計 79 時間	

5年生

米づくり

- バケツ稲栽培
- 学校田での米づくり 山形県鶴岡市東京事務所

CO2（地球温暖化）

- 気象予報士ゲスト授業 平井信行先生（気象予報士）
- KID'S ISO への取り組み
- 自動車工場と環境エネルギー館の見学

見つけた！ぼくたちわたしたちの環境問題

- 調査・実験活動 大庭みゆき先生
 - ★ゲスト授業「暮らしのエネルギー」（環境総合エネルギー研究所）
 - ★調査・実験活動 オーガニックテーブル株式会社
 - ★僕たち私たちの環境マップをつくらう
- 上南子ども環境サミットを開こう
 - ★まとめと再調査
 - ★上南子ども環境サミット開催

関わった教科と時間	環境教育実践の評価
総合 45 時間	環境問題についての話を聞く機会を積極的に設け、問題を理解し、身の周りの環境問題と関連した調査や、問題解決のための対策を実験してみるなど、自分のこととして環境問題を感じ、対策を考える取り組みができた。
国語科 26 時間	
社会科 14 時間	
家庭科 15 時間	
合計 100 時間	

2年生

自然と遊ぼう

- 春を見つげに行こう
- 夏を見つげに行こう
- 秋を見つげに行こう
- 自然と遊ぼう
 - ★おもちゃを作ろう
 - ★フェスティバルをしよう
 - ★北風となかよし・お正月遊びをしよう

関わった教科と時間	環境教育実践の評価
生活科 31 時間	風発見器を手作りし、風を見つけることから始めて、自分で工夫しながら「たこ」を作り遊ぶ。自然を観察し、活用し、親しむという段階を踏み、積み上げていく体験学習ができた。
国語科 26 時間	
図画工作 6 時間	
合計 63 時間	

4年生

水の不思議

- 暮らしを支える水
- 金町浄水場の見学
- ゲスト授業「身近な水」谷村春樹先生（環境学習研究会）
- 活動を伴う調べ学習 環境学習研究会・オーガニックテーブル株式会社
- 自然の不思議を探ろう
- ゲスト授業「せつけんづくり」エスケー石嶮（環境学習研究会）
- おもいっきり表現してみよう！コンクール参加（パネル展示）
- 変身する水を調べよう

関わった教科と時間	環境教育実践の評価
総合 20 時間	ゲスト講師やサポーターを積極的に活用し、子どもの水に対する興味をうまく引き出し、充実した調べ活動や実験によって、水源林の効果や地域の川の歴史など、水に関連づけて幅広く学習することができた。
国語科 22 時間	
社会科 11 時間	
理科 9 時間	
合計 62 時間	

6年生

自然を取り入れた快適な住まいづくり

- 快適探検隊
 - ★快適探検隊 学校編 春
 - ★快適探検隊 世界編
 - ★体感実験「暑さ・涼しさの秘密」オーガニックテーブル株式会社
 - ★快適探検隊 学校編 夏
 - ★涼しさづくり
 - ★ゲスト授業「箱模型実験をして、冬暖かい建物を考えよう」
- 快適に過ごすための校舎を考えよう 宿谷昌則先生（武蔵工業大学教授）
 - ★上南大改造！劇的ビフォーアフター
- 竪穴式住居をつくらう
 - ★茅刈り体験
 - ★オリジナル竪穴式住居の模型をつくる
 - ★ゲスト授業「竪穴式居をつくる」藤森照信先生（建築家・東京大学教授） 大沢匠先生（建築家）
 - ★竪穴住居モデルルームへようこそ

関わった教科と時間	環境教育実践の評価
総合 47 時間	気候風土と民家の関係などを調べ、自然の暮らし方のスタイルを学び、学校の環境を計測、竪穴式住居を作るといった体験を通じて、自然と関わる住まいに興味を持ち、学習した知識から校舎の改修案を提案。ものごとを関連づけて考え、行動する取り組みができた。
国語科 29 時間	
社会科 21 時間	
家庭科 8 時間	
合計 105 時間	

「環境教育プログラム実践調査モデル校」に取り組んで

「わたしは、二期みんなの前で大きな声で発表できるようになりました。そのきっかけは、総合の学習で調べていた校庭の木のことについて書いた詩を3年生全員で発表した『おもいっきり表現してみようコンクール』に出たことです。」3年生のSさんは、国語や総合の時間の学習で樹木医さんに教えてもらい、そこからイメージした創作詩等これまで経験したことを自らこのように価値つけて発表しました。

「ほくは、お正月に一年の目標を立てました。それは、字をきれいに書くという目標です。また、ほくたちが国語や総合の時間に学習して調べ、それを基にしてみんなで作った劇『新中川ものがたり』を今度アマチュア演劇祭に発表するので、川の工事をする人の役の声やせりふに気をつけて練習したいです。」と4年生のU君は、三学期の決意をみんなの前でこのように表明した。不慣れな表情がいつのまにか自信にあふれた様子に変容したU君の姿がまぶしく映った。

これら児童の変容は、国語力向上と環境教育の融合を図って取り組んだ教育実践の証である。本校では、今年度より環境省による「環境教育プログラム実践調査モデル校」の指定を受けて環境教育に取り組んできた。

環境教育はだれでも取り組める

本校には、環境教育に詳しい者がいないが、取り組めるのだろうかという不安に対しては、それでも決してできないことはない。それでよいのだということが検証できた。環境教育について校内にだれも熟知する者がいないところからの出発は、かえって全員が身近な自然に目を向けるという学習につながった。それが新鮮であり、素直に専門家の助言を生かし、発想豊かに取り組むことが可能になったからである。折しも昨年1月には、京都議定書が発効されたり、愛知県で開かれた「愛地球博」が開催されたりして、環境に関心のある人々が増加したという社会的背景も本校の取り組みを後押ししてくれたように思う。

自校の独自性を生かす

本校は、平成14年度から校内研究会において国語科の内容で研究に取り組んできた。今年度の始めに校内研究において国語と環境教育の二本立てで研究を行なうのは無理との考えも出るところである。それを国語の手法で内容は環境で行なうので、双方を融合し、関連性を持たせることでよいとの考えに立ち、研究を一本化した。今年度の研究が、学年の発達段階に応じ、1年から6年までの系統性を持たせた研究となったのは、このような独自の取り組み方が功を奏したのではと考えている。

研究に込めた願い

- 「上南・国語力向上プラン」の中に環境教育を関連させ、年間の教育課程に環境教育をどう位置づけるかを明確にする。
- 「環境は、創るもの」との考えにたち、人とのかわりの場を設定する。子どもと共に学ぶ姿勢で専門家の指導や助言を得、体験的な学びを重視する。そのことにより環境をより身近に感じ、気付きや共感が生まれるからである。
- 授業研究においては、具体的な学習方法の開発、新たな課題設定をし、価値ある実践とする。環境を学ぶことで教師も子ども達も、自らが実践者となる。

本校の研究の充実と円滑な推進ができましたのは、本校の講師として常に意義付けをしてくださり、ご指導くださいました東京学芸大学名誉教授の田近洵一先生の大きな存在がありました。また、環境省の事務局の方々の励ましとご支援、本校を支えてくださったNPO・専門家の方々の親身なご支援とご協力のおかげでもありました。本校を支えてくださった全ての方々に紙面をお借りして、厚くお礼を申し上げます。

江戸川区立上一色南小学校
校長 守矢早苗